



会派「改革クラブ」先進地視察研修報告

2024年4月11日

改革クラブ 渡部 いっぴ

先進地視察研修期間 2024年3月28日～3月29日（2日間）

先進地視察研修先 東京都

3月28日（木） 東京都中央区

調査項目「(株) マーケットエンタープライズ」

14:00～15:30

3月29日（金） 千葉県香取市

調査項目「香取市佐原交流会館」

10:30～12:30

3月28日（木） 東京都中央区 本社会議室

調査項目「南相馬市とのリユース促進提携」について

14:00～16:30

内容

1. 「南相馬市とのリユース活動促進に向けた連携協定締結の経緯」について
2. 取り組まれている全国自治体との連携状況について
3. これまでの実績と成果について
4. その他の事業について
5. 今後の取り組みなど、新たな事業の協力連携について
6. その他

MARKET ENTERPRISE Company Profile

社名の由来 マーケット（市場）をエンタープライズ（冒険的創出）すること

企業理念 WinWin の関係が築ける商売を展開し、商売を心から楽しむ

主体者集団であり続ける

長期ビジョン 持続可能な社会を実現する 最適化商社

会社概要

＊ネット型リユース事業

・個人向けリユース

・マシナリー（農機具）

・おいくら

＊メディア事業

＊モバイル通信事業

*ネット型リユース事業

1、個人向けリユース

(1) 全国対応の総合ネットワーク買取サービス

高く売れるドットコムを運営 <https://www.takakuureru.com/>

累計利用者数 710 万人

依頼数 45 万に

(2) 中古品の買取販売を「C to Bto C」をベースに展開

マーケティング、コールセンター、物流センター、基幹システムを内製化

マーケティング戦略 30 カテゴリーの買取り Web メディア

CtoBtoC : Consumer to Business to Consumer の略

個人間で直接取引をするのではなく、法人を介して行う取引形態のこと

(3) 店頭・宅配に加え、各拠点からお客様の自宅に直接訪問

手間をかけずに不用品を売却できる出張買取を強化中

(4) 東京都墨田区へコンサルタントセンター新拠点開設

現在の場所から機能を集約、フロア拡張

・コンタクトセンター

住所 東京都墨田区江東橋 2-3-7 ONEST 錦糸町スクエア 3 階

面積 159 坪

開設 2023 年 11 月

(5) 多数の企業様と提携し、サービスの拡大ウア販売促進など

新たな価値を創造

・買取りサービス支援 YAHOOJAPAnN amazon Rakuten

・会員向けサービス支援 三菱 UFJ 銀行など

・メーカー買取り支援 SHARP など

2、マシナリー（農機具）

(1) マシナリー（農機具）

日本全国の農機具を買取り、自社 EC を通じて販売すること

国内だけでなく世界各国に向けて農機具の提供

(2) 運営サイト

中古農機具の買取り専門サイト「農機具宅く売れるドットコム」

<https://www.noukigu-takakuureru.com>

農機具を売買したい農家や販売店を繋ぐ「UMM 中古農機具市場」を展開

<https://ummkt.com>

(3) 輸出実績

直接海外へ中古農機具の輸出を行い、これまでに 81 ケ国以上への実績があり

現在も海外販路は拡大中

(4) 日本製の中古農機具

20 年、30 年前の年式でも性能が良く壊れにくい Used in japan として EU、
中東、アジアで需要

最近では、アフリカ諸国からのニーズも顕在化

(5) 新規就農者へのアプローチ

福島市との廃棄物削減と循環型社会の形成を目的にした連携協定

きっかけに、中古機械の流通活性化や新規就農者支援も開始

3、おいくら

(1) おいくら事業

全国のリユースショップへ一括査定が行われる

リユースプラットフォームこれまでに 110 万人が利用

(2) ビジネススキーム

査定したイ・売りたいリユース品の情報を登録するだけで複数の

リユースショップに依頼が可能。最適な買取り業者を選択可能

(3) 地方自治体との連携：南相馬市は 100 番目

住民・行政・環境の課題をリユースで解決

持続可能な循環型社会の実現に向けて地方時事たいとの連携を加速

・人口カバー率 30.48%

・連携自治体数 117 か所 いずれも 2024 年 3 月 27 日現在

4、メディア事業

(1) メディア事業

多様化する消費行動に

その人にとって最適な選択肢を提供

- ・多様化する消費行動に合わせ「買い消費」行動に役立つコンテンツを提供し、
個々人にとって最適な選択肢が見つかるウェブメディアを運営しています。

(2) ビジネスモデル

賢い消費を求める消費者に対し、有益な情報をインターネットメディアで提供

当社メディア群からグループ事業へ送客

- ・月間 PV 数累計 1,400 万 PV 2022 年 7 月～2023 年 6 月 月間平均 PV 数

(3) 運営メディア一覧

通信、モノの売買や修理に関するサイト

賢い消費者に役立つ 8 つの最適なウェブコンテンツを提供

- ・ビギナーズ、MAGAZINE, マガン、最安修理ドットコムなど

5、モバイル事業

(1) モバイル通信事業

価格・スピード安心感で皆様に選ばれるデータ通信サービス

- ・ 今や日常生活を支えるインフラの一部となったデータ通信分野において、高速通信サービスである WiMAX を業界最安級で提供しています。

(自社にて主要な通信カタログ・HP 調べ) カシモ WiMAX

(2) カシモ WiMAX

「カシモ(＝賢いモバイルの略称)」というブランド名で、
安心・安全・快適なモバイルデータ通信のサービスを提供

- ・ WiMAX ならデータ容量無制限で、月額 1,200 円(税抜)～

<https://www.ka-shimo.com/wimax>

「業界最安級」の安くシンプルな料金プランで契約数増加中
保有改選数 8,3 万回戦 2023 年 6 月末現在

* 楽器寄附ふるさと納税

不要になった楽器を集め学校などへ寄贈

- ・ 寄付者は査定額に応じた税還付を受けることができる取組
- ・ 全国 25 自治体が参画

・ 累計査定数 約 1,604 件

・ 累計寄付点数 約 724 点 2018 年 10 月～2023 年 3 月末時点

感想

- 1、将来性のある企業と感じた。
- 2、本市が 100 番目の協定自治体とのことだが、これからの展望をどの様に描いているのかであり、何をしたいかも含め私たちには見えてこない。

3月29日（金） 千葉県香取市

調査項目「香取市佐原交流会館」

10:30~12:30

調査研究事項 歴史的町並みを活かしたまちづくりについて

内容

1, 歴史的町並みを活かしたまちづくりについて

- (1) 町並み保存の経緯と取り組みについて
- (2) 活用と成果について
- (3) 整備と維持管理について
- (4) 行政と市民との協働、連携について

2, 観光のまちづくりについて

3, その他

小野川と佐原の町並みを考える会

- ・市から古い町並みを残してとの話があったが（昭和53年）、すぐには動かなかった。
- ・千葉大教授の論文に古い町並みとして紹介があり（売買しない、壊さない）、文化財の再利用として取り組むことにした。
- ・佐原を考える会を立ち上げ、アンケート調査・建物台帳を作る。
- ・景観条例制定のための基本計画
 - ・費用 3,000万円
 - ・1991年 3月 住民説明会 3回
 - ・1992年 5月 条例（案）市長へ
 - ・1993年 3月 計画書作成
 - ・1993年 10月 町内会単位説明 11回
 - ・1993年 12月 住民意向調査 3回
 - ・1994年 3月 景観条例制定
 - *住民の一体感醸成のため「小野川川ざらえ」の実施 92%の賛意
 - ・自分たちのまちに「誇りを持つ」
 - ・皆の協力でまちづくりが始まった
 - ・このまちに住んで生活ができる
 - ・生きたまち並みに魅力
 - ・生活の場であり、商売のまち
 - ・費用捻出のため
 - ツールドモニュメントファンド支援要請
 - ・ワールドウォッチ アメリカンエクスプレスより20万ドル

・保存地区の概要

- ・名称 : 香取市佐原重要伝統的建造物群保存地区
- ・条例制定 : 平成 6 年 4 月 1 日
- ・地区決定告示 : 平成 8 年 3 月 22 日 (佐原地区、景観形成地区)
- ・保存評価告示 : 平成 8 年 3 月 29 日 (佐原地区、景観形成地区)
- ・選定告示 : 平成 8 年 12 月 1 日
- ・面積 : 伝建地区 7.1ha
- ・景観形成地区 : 18.5ha (伝建築も含む)
- ・棟数 : 伝建築 伝統的建造物 93 件、工作物 3 台、環境物件 1 件、
景観形成地区 景観形成指定建築物 37 棟

・NPO 法人 小野川と佐原の町並みを考える会

(趣旨)

本会は、佐原の歴史的町並みを残そうと、平成 3 年に任意団体として発足し、街並み保存計画の作成や保存活動を推進してきた。官民一体の活動が実り、平成 8 年には、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された。

その後は、まちづくりにも力を注ぎ、平成 16 年には、NPO 法人を取得して拡大した活動を進めている。

(沿革)

昭和 48 年 国庫補助による街並み調査

57 年 日本観光資源財団による街並み調査「よみがえれ水郷の商都」

63 年 「ふるさと創生事業」アイデア募集

平成 元年 三菱銀行佐原支店旧本館が佐原市に寄贈

2 年 「まちづくり語り合う場」が発足

6 年 「佐原町並み保存会」が発足

条例制定「佐原市歴史的景観条例」

8 年 保存地区指定 (伝建地区、景観形成地区)

「観光案内ボランティアガイド」が発足

「重要伝統的建造物群保存地区」に選定 (12 月官報告示)

15 年 伝統的建造物群保存地区協議会「佐原大会」

21 年 読売新聞、平成 100 選に選定

22 年 伊能忠敬関係資料国宝指定

28 年 北総 4 都市江戸紀行「日本遺産」認定

佐原の山車行事「ユネスコ無形文化遺産」登録

(会議)

総会 — 全体会 — 理事会 — 委員会

(会員数)

会員 (68 名)、賛助会員 (14 名) (平成 29 年 6 月現在)

(活動内容・行事)

- 1、保存活動
- 2、佐原町並み交流館・佐原三菱館の管理、運営
- 3、観光案内ボランティアガイド
- 4、29 年度の主な行事
 - (1) 建物公開事業
 - (2) 小野川の清掃
 - (3) 骨董市
 - (4) 視察研修旅行
 - (5) 防災・消火栓訓練
 - (6) 全町連関東ブロック大会

(収入)

- A) 会費 (12,000 円/年、入会金 3,000 円)、賛助会費 (一口 3,000 円)、補助金
- B) 委託料

*官民一体の保存活動

企画・立案(官) → 勉強会で共有 → 地元への活動(民)
それぞれの得手を活かしての保存活動(前面へは考える会)

*町並み保存の取組み

住民の合意・同意を得る
次の 3 点を主張する

- (1) 住環境、文化を守る
- (2) まちづくりに活かす
- (3) 子供や孫に資源を残す

*忠孝家訓書(要約)

第一 偽りをせず正直足るべし
第二 身の下の人でも教訓異見あらば用いるべし
第三 言語進退を寛容に諸事へりくだって
人と争うべからず

亥(1791 年) 9 月 21 日

感想

- 1、この地方には長年培われた、意見を聞きながら物事を決めていくという風習があり、根付いたものがあつた。(今でいうところの民主主義の大原則)
- 2、その事が全てに行き渡っており、市政運営も然り、話し合いで決められています。